

# 令和5年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立東調布第三小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・各題材のまとめとして自他の作品を鑑賞する時間を十分に取り入れることで、互いの作品のよさや工夫したところを感じ取り、認め合う様子が見られた。
- ・絵や工作、立体の題材のバランスを考えるとともに、発達段階に合わせた用具を十分に使用できるように授業計画を立て実施することができた。
- ・事故防止に努め、環境整備・指導を徹底し、安全に実施することができた。
- ・学年の実態に応じ学習にタブレットを端末の活用を行った。

### (2) 課題

- ・学年によっては、協働して行う活動や造形遊びなどが十分にできなかった。結果、体全体で表現する体験が不足してしまった。
- ・中学年のカッターの技能が十分に培えていなかった。
- ・他学年の作品を鑑賞する機会が少なかった。

## 2 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体全体の感覚を生かしながら表し方が工夫できるように、はさみ、のり、カッターなどの用具を扱う活動を十分に確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然物や人工の材料との出会いの中で、造形的な活動を思いついたり、考えたりできるように、環境の設定や材料の選択を工夫する。</li> <li>・展覧会では、学年の友だちや他の学年の作品を鑑賞する時間を十分に確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色や形と楽しく関わられるよう、児童が親しみを感じ、好奇心が高まるような題材を選択する。</li> <li>・視覚的教材を制作、活用し、児童の興味を引き出すとともに、学習の流れが分かるようにする。</li> </ul>

### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手や体全体の感覚を生かしながら、表したいことに合わせて工夫できるよう、金槌やのこぎりなど新たに学習する用具を扱う活動を十分に確保するとともに、カッターやはさみなどの今までに学習した用具の技能の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や用具との関わりにより、表したいことを見付けたり、アイデアスケッチを描きながら作りたいイメージを広げたりすることができるよう、題材によって想像や思考を広げる方法を工夫する。</li> <li>・学級の実態に応じてスクール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の製作に取り組む姿勢を自己評価したり、作品製作の計画を立てたりすることで、主体的に取り組む姿勢を理解し、意欲的に活動できるようにする。</li> </ul>

習熟度を高められるようにする。	タクトを使用し、鑑賞の活動を行う。	
-----------------	-------------------	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>表現したいイメージに合わせ、材料や用具を選択したり、的確に活用したりすることができるように、用具や材料の準備に幅をもたせるとともに、安全の管理を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具、場所の特徴から造形的な活動を考えだしたり、アイデアスケッチを描きながら作りたいイメージを広げたりすることができるよう、題材に合った想像や思考を広げる方法を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作途中の作品をタブレットで記録して見直したり、友達の作品の工夫に気付いたりすることで、作品をよりよくする方法を主体的に考えたり、完成までの計画を立てたりできるようにする。</li> </ul>

4 重点指導事項

- 発達段階に応じた知識や技能の習得、定着ができるよう、体全体の感覚を生かして表現する体験の充実や、用具や材料を試行錯誤しながら活用する活動の確保を十分に行う。(知識・技能)
- 題材に合った多様な思考の広げ方や深め方ができるよう、教材の提示やタブレットの活用を工夫する。(思考・判断・表現)
- 協働して行う活動を取り入れることで、仲間と共に表現活動を楽しみながら主体的に活動ができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)